

解説 源 頼光が頼光四天王を伴って酒吞童子討伐を詠った詩。

頼光出陣（弓場直彦）

万夫 不当の 勇士の 面々

斎戒 沐浴 武神を 拝し

黒鉄をも 絶つ 利剣と ともに

手馴れの 物具 笈に 収め

山伏 姿の 装束 ととのえ

寅の 下刻に 颯爽と

金剛杖を 突き 立てて

朱雀大路に 揃い 出る

向う 丹波は 山紅葉

色 鮮やかに 燃えんとす

憎つくき 鬼ども 汝等 亦

押し斬り 裂いて 紅の

屍 山と 築かんか

誓う 姿ぞ 頼もしき

エイエイオー、エイエイオー

語釈 ※頼光 源 満仲の長子。渡辺綱を筆頭とする頼

光四天王（渡辺綱、坂田公時、碓井貞光、卜部季武）により酒吞童子討伐隊が結成された。※万夫不当 誰もが敵わないほどの剛勇。※面々 各自。※斎戒 神仏に關係ある物事や神聖な仕事などをする時に一定の規律を守って、心身の汚れを去ること。※沐浴 体を水で洗い潔める事。※黒鉄 鉄の呼称の一つ。鈍い黒さを持つ事から黒鉄と呼ばれる。※利剣 よく切れる剣。※物具 道具。器具。※笈 背に負う道具などを入れる箱。※装束 衣服、武器、馬具、輿車などの装いの組合せ。※寅の下刻 三時から五時の間。※颯爽 爽やかで勇ましいさま。※金剛杖 修験者や巡礼者が持つ八角または四角の白木の杖。※朱雀大路 長安の都にならった平城京、長岡京、平安京などの中央を南北に通ずる大路。朱雀門から、羅城門に至り、これより東を左京、西を右京とした。※丹波 京都府の丹波・丹後両地方の境をなす山。山中に酒吞童子が住んだといわれる洞窟がある。※屍 死体。

通釈 豪勇な頼光四天王の面々は、身を清め、武神に祈り、黒鉄をも切るほどの剣を持ち、手馴れの物具を背負いの箱に収め山伏姿となって、寅の下刻に颯爽と金剛杖を突き立て朱雀大路から丹波に向けて旅立った。その丹波の山は鮮やかな紅葉が咲き誇っている。都を荒らす憎つくき鬼共を退治せんと誓い出発した。

物語 一条天皇の時代、京の人々が次々と神隠しに遭った。安倍晴明に占わせた処、大江山に住む鬼の仕業とわかった。そこで帝は源頼光と藤原保昌らを征伐に向わせた。頼光らは山伏を装い鬼の居城を訪ね、一夜の宿をとらせて欲しいと頼む。色々と酒吞童子らに詰問をされたが、疑いを晴らし酒を酌み交わして話を聞いた処、大の酒好きな為酒吞童子と呼ばれていることや、平野山に住んでいたが最澄が延暦寺を建てて以来、そこに居られなくなり、その後、大江山に住みついた事など身の上話を語った。頼光らは鬼に八幡大菩薩から与えられた神便鬼毒酒という鬼だけに効く毒酒を振る舞い、酒に酔いつぶれた酒吞童子の寝所を襲い、首をはねた。生首は頼光の兜を噛みつきにかかったが、仲間の兜も重ねかぶって難を逃れた。一行は、首級を持ち帰り京に凱旋。首級は帝らが検分したのちに宇治の平等院の宝蔵に納められた。